

作成日 2014年10月16日

改訂日 2018年4月23日

安全データシート

【混合物用(塗料用)】

1. 化学物質等および会社情報

化学物質の名称 : CPエコ ローラーベース 主材
主な用途 : CPエコ ローラー塗装用 専用混和液
会社名 : 中央ペイント株式会社
住所 : 〒532-0036 大阪市淀川区三津屋中 2-1-25
担当部門 : 生産技術部 担当者 : 泉谷昌樹
電話番号 : (06) 6309-4151 FAX 番号 : (06) 6309-4857
緊急連絡先 : (06) 6309-4151

2. 危険有害性の要約

【GHS 分類】 分類に該当しない。

急性毒性 経口 : 飲み込むと有害のおそれ
経皮 : 皮膚に接触すると有害のおそれ
吸入 (ガス) : —
(蒸気) : 吸入すると有害のおそれ
(粉塵, ミスト) : —
皮膚腐食性/刺激性 : 軽度の皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 眼刺激
呼吸器感作性 : データなし
皮膚感作性 : データなし—
生殖細胞変異原性 : データなし—
発がん性 : データなし—
生殖毒性 : データなし—
特定標記臓器/全身毒性 (単回暴露) : データなし
特定標記臓器/全身毒性 (反復暴露) : データなし—
吸引性呼吸器有害性 : データなし—
水性環境有害性 (急性) : データなし—
水性環境有害性 (慢性) : データなし—
オゾン層への有害性 : データなし—

【GHS ラベル要素】

なし

【注意喚起語】

なし

【危険有害性情報】

飲み込むと有害のおそれ
皮膚に接触すると有害のおそれ
吸入すると有害のおそれ
軽度の皮膚刺激
眼刺激
水生生物に有害

【注意書き】

(安全対策)

取扱い作業場では火気厳禁で局所排気装置を設けてください。
取扱い中は換気をよくし、蒸気を吸い込まないようにし、必要に応じて有機ガス用マスク又は、送気ガス用マスクを着用してください。
眼、皮膚に触れないように保護めがね、保護手袋、長袖の作業服を着用してください。
取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行ってください。

(応急処置)

火災の場合 : 消火するために粉末消火器、泡、炭酸ガスを使用すること。
眼に入った場合 : 水で 15 分間注意深く洗うこと。速やかに医師の診察を受けてください。
皮膚に付着した場合 : 石鹼水で洗い落とし、痛み又は外観に変化がある時は速やかに医師の診断を受けること。
誤って飲み込んだ場合 : 直ちに医師の診断を受けること。
眼刺激が続く場合 : 医師の診断/手当てを受けること。
蒸気・ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けること。

(保管)

直射日光のあたらない冷暗所（5～40℃）に保管すること。
子供の手の届かない一定場所に、フタをして保管すること。

(廃棄)

内容物/容器を（国際、国、都道府県、又は市町村の規制に従って）に廃棄すること。

(漏洩)

容器からこぼれた場合、砂、布等でふきとり、不燃性の容器または水を張った容器に改修して下さい

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

皮膚に付着するとかぶれや炎症をおこすおそれがある。

3. 組成・成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物

成分および含有率（危険有害物質を対象）

成分	CAS	含有率 (%)	備考
アクリル酸エステル共重合物	—	49～51	—

4. 応急措置

吸入した場合

蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿で休息させること。症状が改善しない場合は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

付着した衣服、靴を脱ぎ付着した部分を水又は微温湯を流しながら洗浄する。

眼に入った場合

直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。
医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

誤って飲み込んだ場合には、水で口内をよく洗い、直ちに医師の診断を受けること。

5. 火災時の措置

消火剤： 粉末、泡、二酸化炭素消火剤・砂・霧状水

使ってはならない消火剤： 棒状水は、火災を拡大し危険な場合がある。

※ 火災によって刺激性、毒性、または腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火方法

初期の火災には、粉末・二酸化炭素などを用いる。
大規模火災の際には、泡消化剤などを用いて空気を遮断することが有効である。
周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却する。
移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火を行う者の保護

消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。
状況に応じて、適切な保護具（手袋・眼鏡・マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業の際には適切な保護具(保護手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。

屋内では換気をしっかり行う。

屋外の場合には、できるだけ風上から作業を行う。

周辺を立ち入り禁止にし、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

付近の着火源・高温体及び可燃物を素早く取り除く。

着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。

多量の場合は、人を安全に退避させる。

環境に対する注意事項

河川への流出等により、環境への影響を起ささないように注意する。

河川・湖沼等へ流出した場合は、必要に応じ、直ちに警察署・保健所・水道局・農協・漁協等へ
通
報し連絡を取る。

悪臭等の発生のため、周辺の住民に漏洩の生じたことを通報する等の適切な措置を行う。

封じ込め及び浄化の方法・機材

少量の場合には、乾燥砂・おがくず、布等で拭き取り、密閉できる容器に回収する。

多量の場合には、流路を毛布、土嚢等でせき止め、バキューム等で回収する。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

換気の良い場所で取り扱う。容器はその都度密栓する。

保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。

取扱い後は手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。

保管

日光の直射を避ける。通風のよいところに保管する。

保管時の温度は5℃以下、40℃以上にならないようにする。

使用後は、皮張り、腐敗防止のため、密閉して速やかに使用する

8. ばく露防止および保護措置

組成物質の管理濃度および許容濃度

成分	管理濃度	許容濃度 ACGIH(TLV)
アクリル酸エステル共重合体	—	—

設備対策

取扱い設備は防爆型を使用する。

排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。

屋内塗装作業の場合は、自動塗装機等を使用する等、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置などにより作業者が暴露から避けられるような設備とすること。

呼吸器の保護

呼吸器用保護具（有機ガス用防毒マスク、エアラインマスク等）を着用する。

手の保護具

有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

眼の保護具

取扱いには保護メガネを着用すること。

皮膚及び身体の保護

取り扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。（長袖作業着、保護長靴、保護前掛け）

9. 物理的および化学的性質

・状態（20℃）	: 乳白色液体	・色	: 乳白色
・臭い	: エマルジョン臭	・pH	: 7.0～9.0
・粘度	: 1～300 mPa・s	・比重	: 1.0～1.1
・沸点	: 100℃（水）	・引火点	: データなし
・燃焼又は爆発範囲の上限	: データなし	・自然発火温度	: データなし
下限	: データなし		
・蒸気圧	: データなし		
・その他	: 特になし		

10. 安定性および反応性

製品の安定性

保管の項目記載の保管条件で安定。

避けるべき条件

低温（5℃以下）及び高温（40℃以上）

混触危険物質

情報を有していない

危険有害な分解生成物

情報を有していない

11. 有害性情報（危険有害性物質を対象）

《アクリル酸エステル共重合体》

急性毒性（経口）	: 飲み込むと有害のおそれ
（経皮）	: 皮膚に接触すると有害のおそれ
（吸入：蒸気）	: 吸入すると有害のおそれ
皮膚腐食性/刺激性	: 軽度の皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	: 眼刺激

12. 環境影響情報

生態毒性	: データなし
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし

組成物質の水生環境有害性

成分	水生環境急性毒性	水生環境慢性有害性
アクリル酸エステル共重合体	水生生物に有害	情報なし

現在、下記以外、環境への影響が認められた経験・知見に関する情報はありません。

河川等に流出させると、白濁を生じます。

又、魚類が樹脂の粘着性により、呼吸困難になったり、死亡する場合があります。

13. 廃棄上の注意

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。廃塗料、容器などの廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。

容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法律に従って処理を行なうか、処理を委託すること。

空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

14. 輸送上の注意

共通

取り扱い及び保管上の項の記載に従うこと。

容器漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にこなうこと。

国際規制

国連番号	:	—
指針番号	:	—
国際輸送名	:	—
国連分類	:	—
容器等級	:	—
海洋汚染物質	:	—

国内規制

陸上輸送：消防法、労働安全衛生法、毒劇法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められている運送方法に従うこと。

海上輸送：船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空輸送：航空法に定めるところに従うこと。

15. 適用法令

特になし

16. その他情報

参考文献：GHS 対応 SDS・ラベル作成ガイドブック[混合物用(塗料用)]改訂第2版

SDS 用化学物質データベース（塗料用）第6版（社団法人日本塗料工業会編）

JIS Z7253：2012（日本規格協会発行）

注意：

本データシートは、作成時又は改定時において、製品及びその含有成分等に関する最新の情報(危険有害性情報・取扱情報等)を集めておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合は予告なく追加・修正を行い改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。

本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合に

は、使用者において安全性の確認を行ってください。

この SDS は、現時点で入手した資料に基づいて作成しております。当該製品の危険・有害性に関する情報および評価は原材料の情報から推定したものであり、必ずしも十分なものではありません。

御使用者の責任において安全な取扱い方法をお決めください。